

## 2008 年度 小委員会活動成果報告

(2009 年 2 月 9 日作成)

|                              |   |                                |                                |
|------------------------------|---|--------------------------------|--------------------------------|
| 小委員会名                        | 地球環境・構造小委員会   |                                | 主 査 名：稲田 達夫<br>就任年月：2004 年 4 月 |
| 所属本委員会<br>(所属運営委員会)          | 地球環境委員会   |                                | 委員長名：吉野 博                      |
| 設 置 期 間                      | 2007 年 4 月 ~ 2009 年 3 月   |                                |                                |
| 設 置 目 的<br>各年度活動計画<br>(箇条書き) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本委員会は建築構造の立場から地球環境への取組みを検討する。</li> <li>・設計段階で設定する物理的・社会的寿命の各段階に対して、建築材料、構造部材、架構などの選定がどのような環境負荷を与えるか等の検討を通し、今後の建築構造の在り方を考察する。</li> </ul> |                                |                                |
| 委員構成<br>(委員名(所属))            | 委員公募の有無：あり  |                                |                                |
|                              | 稲田達夫(地所設計) 朝山秀一(電機大) 稲田泰夫(大崎研) 大越俊男(日本設計) 大谷恭弘(神戸大) 加倉井正昭(東京ソイル) 坂本真一(清水建設) 田村和夫(清水建設) 田中享二(東工大) 滝口克己(東工大) 西村功(武蔵工大) 橋本康則(大林組) 平川倫生(地所設計) 藤田正則(日鉄住金鋼鉄) 持田泰秀(清水建設)               |                                |                                |
| 設置 WG<br>(WG 名：目的)           | 建築構造性能評価システム活用WG：質な社会ストック形成のための建築構造性能評価システムの調査  |                                |                                |
| 2008 年度予算                    | 85,000 円  | ホームページ公開の有無：なし<br>委員会 HP アドレス： |                                |

| 項 目                            | 自己評価   |
|--------------------------------|--|
| 委員会開催数                         | 6 回(年度内計画を含む)  |
| 刊行物<br>(シンポジウム資料等は<br>除く)      |  |
| 講習会                            |  |
| 催し物<br>(シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)  |  |
| 大会研究集会                         | PD「性能設計からBCPへ - BCPは構造設計を革新するか - 」<br>参加者数 80 名<br>資料名：同上  |
| 対外的意見表明・パブリックコメント等             |  |
| 目標の達成度<br>(当初の活動計画と得られた成果との関係) | 1. 前年度までの成果の見直しと、情報の発信。建築構造性能評価システム(試案)の実建物(建築会館)への適用と評価を行った。<br>2. 上記結果を踏まえ、学会大会においてPDを開催。2年間の成果を資料にまとめた。<br>(以上より達成度80%) |
| 委員会活動の問題点・課題                   | 1. 今後、建築構造性能評価システム(試案)の精度の検証および普及が課題となる。   |

\* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。